

# 2024 SYLLABUS

## 通信教育部

### 北海道情報大学

#### 【 教養科目：目次 】

心理学 .....	2
哲学.....	4
物理学の基礎 .....	6
基礎生命科学 .....	8
サステイナビリティ学.....	10
モチベーションの科学.....	14
ホスピタリティマネジメント .....	16
メディア・リテラシー入門 .....	18
健康科学.....	21
海外事情（アメリカ編） .....	23
海外事情（中国編） .....	26
海外語学・文化研修（中国大連編） .....	28
英語Ⅰ（初級英語読解） .....	30
英語Ⅱ（初級英会話） .....	32
英語Ⅲ（中級英語読解） .....	34
英語Ⅳ（中級英会話） .....	36
英語Ⅴ（実用英語） .....	38
初級中国語.....	40



担当教員： 稲田 尚史

専 門 心理学（臨床心理学・認知心理学）

出身校等 北海道大学 大学院 文学研究科 文学修士 博士（医学）

現 職 九州産業大学 人間科学部臨床心理学科 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
第 1 講 心理学とはなにか (p.1) ～第 16 講 適応の障害と心理療法 (p.204)	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて	
<p>【試験時参照許可物】</p> <p>一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p> <p>【試験に関する注意事項】</p> <p>印刷授業においては、学習用プリントを参考にしながらテキストをよく読み、要点をノートにまとめよく理解しておくこと。</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>心理学は人の心の働きや行動を通して研究する学問である。一般的な心理学のイメージは、心理検査や心理療法など、個人の心の状態を調べたり、適応を改善したりする臨床的なイメージが強いかもしれない。しかし、心理学は人の行動に関わる様々な機能を研究対象としており、基礎的なメカニズムからその応用に至るまでその範囲は非常に広い。学習範囲が大変広いので、学習用プリントを基本として教科書や参考図書を用い、それぞれの項目について自己の体験と関連づけながら理解するよう心がけて欲しい。</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
<p>ここでは、一般教養としての心理学の学習を目指しており、できるだけ広く偏りのない心理学の基礎的知識とその基本的考え方を学んで欲しいと考えている。心理学を学ぶことで、身の回りの様々な疑問が解決するという単純なものではないが、人間とはどのようなものかを知り、自分を知り、他人を知るという過程を経て、自己の成長に繋げて貰えるならば望外の喜びである。単に事柄を記憶するのではなく、自分の身の回りの出来事や経験と結びつけながら、体験をもとにした学習を進めてくれることを願っている。</p>	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>第 1 回：心理学とはなにか・行動の発生</p> <p>第 2 回：要 求</p> <p>第 3 回：要求と行動</p> <p>第 4 回：知 能</p> <p>第 5 回：性 格</p> <p>第 6 回：性格の形成</p> <p>第 7 回：感 情</p> <p>第 8 回：学 習</p> <p>第 9 回：記 憶</p> <p>第 10 回：認知と思考</p> <p>第 11 回：感 覚</p> <p>第 12 回：視聴覚</p> <p>第 13 回：個体の発達</p> <p>第 14 回：社会心理</p>	

第 15 回：適応の障害と心理療法
<b>準備学習(予習・復習)</b>
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価 100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書 名：心理学（新版） 著者名：大山 正、詫摩武俊、中島 力 発行所：有斐閣 ISBN：9784641111028
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
大学院附属臨床心理センターにおける相談・指導 北海道・札幌市・福岡県 スクールカウンセラー 精神科病院での検査・相談 豊富な臨床経験に基づき、心理臨床場面や日常生活での様々な場面の具体例について、心理学の観点から考察を行うことができるような教育を実施する。



担当教員： 三浦 洋

専 門 哲学、倫理学、芸術学

出身校等 北海道大学大学院文学研究科

現 職 北海道情報大学 情報メディア学部 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業・前期面接授業・後期面接授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の内容全て。	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
教科書の内容全て。	
<p>【印刷授業：試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p> <p>【面接授業：試験時持ち込み許可物】 一切自由</p> <p>【試験に関する注意事項】 印刷授業の科目試験は、インターネット試験で実施します。その際、教科書は必ず参照すること。面接授業（スクーリング）の場合も、試験の際は必ず教科書を持参すること。</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>哲学は元来、すべての学問を包摂する知的探究の営みです。人間、自然、社会など、およそ世界の存在に関わる事柄はすべて哲学の対象でした。今の社会では、人々の考え方を単純に「哲学」と呼ぶ場合もありますが、学問としての哲学には厳密さが求められ、哲学独特の問題の立て方や探究方法が古来思索されてきたのです。この授業では、古代ギリシャから現代まで歴史を追って著名な哲学者や主要な哲学の潮流を学び、そのことを通じて哲学という学問のあり方そのものを学びます。</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
<p>哲学には人間の論理的思考の原型が秘められていますから、自分の力で物事を粘り強く考える姿勢を養うことができます。また、哲学の探究は生き方の思索に結びつきますから、歴史上の哲学者たちが考えてきたテーマを学ぶことは、自分の人生を深く考えるときのよりどころにもなるはずです。これら二点を踏まえ、哲学を単なる知識の寄せ集めとしてではなく、生きた教養として身につけることが目標です。</p>	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>第 1 回：哲学の始まりとミレトス学派 第 2 回：イタリア学派の思想 第 3 回：ソクラテスの思索 第 4 回：プラトンとイデア論 第 5 回：アリストテレスの哲学 第 6 回：中世のキリスト教哲学 第 7 回：イギリス経験論の展開 第 8 回：大陸合理論の展開 第 9 回：カントの調停 第 10 回：ドイツ観念論の展開 第 11 回：ヘーゲルと弁証法 第 12 回：コントの実証主義とマルクスの唯物論 第 13 回：実存主義と本来の自己 第 14 回：科学哲学の展開</p>	

第 15 回：現象学から解釈学への展開
<b>準備学習(予習・復習)</b>
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどをもとにして自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。2 時間。 印刷授業以外の授業形態においては、以下の準備学習を行います。 (予習) 聴講前に、教科書の該当箇所に目を通してください。 (復習) 聴講後に、教科書の該当箇所を読んで、確認してください。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 科目試験 100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
岩田靖夫・坂口ふみ・柏原啓一・野家啓一著『西洋思想のあゆみ ロゴスの諸相』、有斐閣 ISBN 9784641059559 (紙媒体に限る。電子書籍は不可)
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
実務経験なし

担当教員： 露木 孝尚

専 門 素粒子物理学

慶應義塾大学工学部物理学科卒業、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻

出身校等 修士課程修了、新潟大学大学院自然科学研究科数理物質科学専攻博士後期課程修了、博士（理学）

現 職 北海道情報大学 経営情報学部 講師



<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
授業範囲と学習用プリント、Moodle にアップロードする資料の内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
教科書のうち学習用プリントで指定するページ	
<p>【印刷授業：試験時参照許可物】</p> <p>一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>本科目では教養としての物理学を幅広く学びます。物理学は自然界の根本的な法則を扱う分野であるだけでなく、身の回りの様々な技術に応用されています。例えば近年ニュースで目にするようになった量子コンピュータは、量子力学という物理学が応用されています。この世界をより良く知り、論理的な思考をするために、教養として物理学を学ぶことは大切です。</p> <p>本科目では写真や動画を積極的に用いることによって、視覚的かつ具体的に物理学を学びます。教科書には QR コードが載っており、それを読み取ると実験動画や自分の手で動かせるアニメーション等を見ることができます。基本的な内容から扱うため高校で物理学科目を履修していない方でも問題ありません。一方で原子や宇宙、未解決問題などの発展的内容も扱うため、最先端の現代物理学にも触れることができます。</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
身の回りの様々な自然現象について物理学の概念を用いて理解すること。また身近な科学技術に応用されている物理学の原理を理解すること。	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>第 1 回：物理学の全体像と単位系</p> <p>第 2 回：速度と加速度、運動の法則</p> <p>第 3 回：様々な力</p> <p>第 4 回：万有引力と宇宙開発</p> <p>第 5 回：エネルギー</p> <p>第 6 回：熱と温度</p> <p>第 7 回：波と音</p> <p>第 8 回：電気</p> <p>第 9 回：電気回路</p> <p>第 10 回：磁場と発電</p> <p>第 11 回：電磁波と光</p> <p>第 12 回：原子と電子</p> <p>第 13 回：原子核と放射線</p> <p>第 14 回：素粒子</p> <p>第 15 回：相対性理論と宇宙</p>	
<b>準備学習(予習・復習)</b>	

印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で60時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 Moodle 試験：50% Moodle 小テスト：50%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書 名：新課程 視覚でとらえるフォトサイエンス 物理図録 著者名：数研出版編集部 発行所：数研出版 ISBN：9784410265143
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
さらに深く学びたい方向けです。実験動画も見るができます。 書 名：第5版 基礎物理学 Web 動画付 著者名：原 康夫 発行所：学術図書出版社
<b>関連授業科目</b>
基礎数学、宇宙への挑戦
<b>その他</b>
なし。
<b>担当教員の実務経験</b>
2018年から2019年にかけて、国家公務員として宇宙開発関係の仕事に携わりました。大学で学ぶ物理学が実際にどのように応用されているかを知ることができました。実務経験を活かし、本科目では抽象的でなく具体的で題材を取り上げることで、物理学を通して身の回りの現象や技術の基本原則を理解できるようになる教育を行います。



担当教員： 居弥口 大介

専 門 生物物理学、構造生物学

出身校等 北海道大学 理学博士

現 職 知的情報総合サービス

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて	
<p>【試験時参照許可物】</p> <p>一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>近年、ヒトの設計図とも呼ばれる全ゲノム情報が解明され、身体のなかで機能しているタンパク質に関する膨大な情報を、誰もがデータベースから取得することが可能な時代になった。そしてゲノム情報を基盤とした新たな創薬の世界が幕を開け、固体差を考慮するテーラーメイド医療も現実になろうとしている。さらに遺伝子操作をはじめとするバイオテクノロジーの発展はめまぐるしいものがあり、これらを使った遺伝子組み換え食品の開発、ES 細胞や iPS 細胞などによる再生医療など、最先端技術に関する情報が新聞やテレビなどで伝えられている。しかしながら、これら最先端技術を用いた生物学や医療などに関する情報は、生命科学に関する基礎的知識を身につけていなければ正確に理解することができない。</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
<p>本講義では、人体の構造や遺伝、免疫など、ヒトのからだに関する基礎的な知識について正しく理解することを目標とする。</p>	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>本講義では教科書として「わかる生物学」（化学同人）を使用します。学習用プリントを参考にしながら下記の内容について学習してください。</p> <p>教科書の各章の終わりには章末問題があります。学習した知識の確認のために必ず解いてください。</p>	
<p>第 1 回：「生物とはいったい何だろう」</p> <p>第 2 回：「細胞から、からだができる」－細胞の構造と機能、組織、器官・器官系－</p> <p>第 3 回：「細胞から、からだができる」－細胞の分裂と増殖、配偶子形成と受精－</p> <p>第 4 回：「食べ物からエネルギーをつくる」－エネルギーを作り出す分子 ATP、食べ物からエネルギーをつくるしくみ－</p> <p>第 5 回：「食べ物からエネルギーをつくる」－脂肪酸からのエネルギー供給－</p> <p>第 6 回：「食べ物から、からだをつくる」－からだは食べ物からどのようにしてできるか－</p> <p>第 7 回：「食べ物から、からだをつくる」－生きてゆくための水－</p> <p>第 8 回：「人体の構造を探る」－人体のつくり－</p> <p>第 9 回：「人体の構造を探る」－血液の働き－</p> <p>第 10 回：「からだの調節のしくみ」－神経系による調節、内分泌系による調節－</p> <p>第 11 回：「からだの調節のしくみ」－免疫とは－</p> <p>第 12 回：「子どもが親に似る遺伝のなぞ」－メンデルの遺伝の法則－</p> <p>第 13 回：「子どもが親に似る遺伝のなぞ」－変異－</p> <p>第 14 回：「遺伝子の本体 DNA」－分子生物学への道程、DNA 二重らせんの発見－</p>	

第 15 回：「遺伝子の本体 DNA」－DNA と突然変異、遺伝情報の調節、分子生物学の今後－
<b>準備学習(予習・復習)</b>
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価 100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書 名：わかる生物学 知っておきたいヒトのからだの基礎知識 (初版) 著者名：小野廣紀、内藤通孝 発行所：化学同人 ISBN：9784759810424
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
平成 18 年度から平成 23 年度まで大学薬学部の教員として生命科学分野の研究に従事。遺伝子工学、生化学、X 線結晶構造解析などの実験手法を使用して、主に酵素や転写因子などのタンパク質の構造・機能を解析する研究を行った。これらの実務経験を生かして、医療やバイオテクノロジーなどの最先端技術の話題を正しく理解するために必要な生命科学の基礎的知識の習得につながる教育を実施する。

担当教員： 横山 隆



専 門 建築材料学、建築環境学  
 北海道大学大学院 工学研究科建築工学専攻構造材料専修修士 スウェーデン王  
 出身校等 国国立シャルマース工科大学 土木工学部建設 材料講座 Licentiatexamen 取得  
 (Half Doctor Degree)  
 現 職 最高裁判所専門委員 (札幌地方裁判所所属)、司法委員および民事調停委員  
 (札幌地方裁判所および札幌簡易裁判所所属)

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の内容すべて・学習用プリントの内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
教科書の内容すべて・学習用プリントの内容すべて	
<p>【試験時参照許可物】                  一切自由 ※ただし Web ページ (通信教育部 POLITE を除く) と生成系 AI の参照は不可とする。</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>レイチェル・カールソンが「沈黙の春」(1962 年)、ローマクラブが人類の危機レポートとして「成長の限界」(1972 年)を                  発刊して以来、環境問題が地球全体に影響を及ぼす喫緊の課題として認識されて久しい。                  現代に於いては、環境問題を克服して環境的(エコロジカル)持続可能性を追求し、さらに経済的持続可能性や社会的持続可能                  性を併せてバランス良く実現させていく持続可能な発展(Sustainable Development)と言う概念で解決に向けた方向性が示                  されている。</p> <p>サステナブル・デベロップメント(持続可能な発展)は、ブルントラント委員会で「将来の世代が自らのニーズを満たす                  ための能力を損なうことなく、現在世代のニーズを満たすような発展」と定義づけられ(1987)、世代間衡平、南北社会間衡                  平、生物多様性への配慮等の諸要素を広く包含し、持続可能な発展への課題解決を目指したサステナビリティ学へと概念                  的に進化してきている。また、2015 年 9 月、国際連合で開催された「持続可能な発展サミット」では、2030 年までに達                  成すべき 17 の持続可能な発展目標 SDG s (Sustainable Development Goals) と 169 項目の具体的ターゲット(達成基準)                  が 193 の加盟国によって全会一致で採択されている。</p> <p>しかし、現実の諸問題はその背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が複雑に絡み合ったものであり、正確に問題の                  所在を理解し、課題解決に向けた対策を打つことは容易ではない。細分化され専門分野に深化し、要素還元主義を前提に構                  築されてきた単体の既存科学・技術領域のみの努力では、実践的解決能力を失ってしまっている。様々な情報や視座、相反す                  る選択肢が混在する中で主観的な判断が求められる状況下にあるが、地球や自然、人間や地域社会の成り立ちにまで根ざし                  た知識や思考力、問題の実態を把握する直感力、そして何よりも過去や他の事例を学びつつ解決を目指す熱い思いが、全人                  類の直面する諸課題に対する実践的解決能力に結びつく事は間違いない。</p> <p>そもそもサステナビリティ学というものが 1 つの学問・科学分野として成立するのか議論が続いているのも事実であ                  る。諸説はあるが、これがサステナビリティ学で、この方法論がサステナビリティ学の本質であるとは明快に提示され                  ておらず、共通認識にもなっていない。概念的な大きな枠組みとして示されているのみである。</p> <p>しかし、現象が複雑で個別科学の領域を逸脱している地球規模の課題から地域的な課題まで取り扱う実践的解決能力を今                  ほど求められている時代は無い。地域的課題の集合体が地球全体が直面している課題であり、我々一人一人が地球とともに                  生きるため、身の回りの実践的課題解決を通じて自分自身のサステナビリティ学を組み上げることが重要であり、未来世                  代への責務でもあることを学んでいきたい。</p> <p>発展的学習として、最近話題になっている「人新世* 1 の資本論」(著者：斎藤幸平 集英社新書)に示された「気候変動                  を放置すれば、この社会は野蛮状態に陥るであろう。それを阻止するためには資本主義の際限なき利潤追求を止めなければ                  ならないが、資本主義を捨てた文明に繁栄などありうるのか。」と言う危機感と、著者が描きだした「晩期マルクスの思想</p>	

の中に眠っていたヒントから構想した豊かな未来社会への具体的な道筋」を吟味しながら理解する力も身につけていきたい。

\* 1 「人新世：人類の経済活動が地球を破壊する環境危機の時代。ここ数十年の地質年代区分として提唱されている」

## 科目における学修の到達目標

2011年3月11日に発生した東日本大震災以来、それまでのエネルギーや地球環境への考え方、政策、そして我々のライフスタイル、人生観そのものまで問われている。有限の資源しか持ち合わせていない地球に依拠している我々人類は、原子力エネルギーや化石燃料消費（地球温暖化の原因となる）問題はどのように考えられ、最優先に考えられなければならないことは何か？今の資本主義社会の成長の行き着くところには何が見えてくるのか？将来世代にわたる幸せはどうすれば実現できるか？と問われている。

教科書「人新世の科学 ニュー・エコロジーがひらく地平」と「ポスト資本主義－科学・人間・社会の未来－」に示された、厳しい現実社会のあり様とその課題解決に実践的に向き合う著者たちの思考を辿ることにより、課題解決手法としてのサステナビリティ学の概念と思考の方法（方向性と幅）を追体験し、課題と解決策を認識して自分自身の意見をまとめる力を付けることを目標とする。

## 講義の方針・計画

第1講：サステナビリティとは（学習用プリント集）

成長の限界と持続可能な発展Ⅰ（学習用プリント集）

第2講：成長の限界と持続可能な発展Ⅱ（学習用プリント集）

第3講：成長の限界と持続可能な発展Ⅲ（学習用プリント集）

脱成長社会への転換は可能か（人新世の資本論の吟味）

以降、教科書「人新世の科学－ニュー・エコロジーが開く地平－」

オズワルド・シュミッツ 日浦 努 訳 岩波新書 No.1922 第1刷 2022.3.18 発行

第4講：はじめに

ニュー・エコロジーとは、人間による地球支配の拡大に直面する人新世（アントロポセン）と呼ばれる新しい時代において、人間と自然の分裂を克服し、生態系の機能を維持する問題に取り組むことを目的とした学問であることを学びます。

第1章 持続可能性への挑戦 P1～

1 「北」の眺め ～2 ポートフォリオとしての生物多様性

第2章 種と生態系の価値 P19～

1 蚊を絶滅させてはいけぬのか ～3 搾取と機会費用－原生地域での人間のつながり

第5講：第3章 生物多様性と生態系機能 P39～

1 機能とサービス ～2 機能的冗長性－危機における多様性の意義

第4章 飼育馴らされた自然 P69～

1 生態系エンジニアたち－ビーバー、シロアリ、人間 ～4 生息地をつなぐ

第6講：第5章 社会－生態システム思考 P107～

1 大西洋タラ漁の教訓 ～4 人間が真に「社会的」であること

第7講：第6章 驕りから謙遜へ P137～

1 人工生態系の失敗から ～5 修復への展望

第8講：第7章 人間による人間のための生態学 P163～

1 何と何を秤にかけか ～4 空間と時間のシステム統合

第9講：第8章 生態学者とニュー・エコロジー P193～

以降、教科書「ポスト資本主義－科学・人間・社会の未来－」

広井良典 小澤祥司 岩波新書 No.1550 第9刷 2021.10.05 発行

第10講：はじめに 「ポスト・ヒューマン」と電腦資本主義

近代科学と資本主義と言う二者は、限りない「拡大・成長」の追求という点において共通しており、その限りで両輪の関係にある。しかし、地球資源の有限性や格差拡大といった点も含め、そうした方向の追求が必ずしも人間の幸せや精神的充足をもたらさないことを人々がより強く感じ始めているのが現在の状況ではない

か。このように考えていくと、私たちの生きる時代が人類史の中でもかなり特異な、つまり「成長・拡大から成熟・定常化」への大きな移行期であることが、一つのポジティブな可能性ないし希望として浮上してくる。資本主義と言うシステムが不断の「拡大・成長」を不可避の前提とするものだとすれば、そうした移行は、何らかの意味で資本主義とは異質な原理や価値を内包する社会像を要請することになるだろう。こうした文脈において、「ポスト資本主義」と呼ぶべき社会の構想が、新たな科学や価値の有りようとして、思考の根底にさかのぼる形でいま求められているのではないか。

#### 序章 人類史における拡大・成長と定常化 P1～

・ポスト資本主義をめぐる座標軸

##### 1 「第四の拡大・成長」はあるかー超資本主義 vs ポスト資本主義

～3 現実とは脳が見る共同の夢か？ソーシャル・ブレインと社会関係性

#### 第Ⅰ部 資本主義の進化

##### 第1章：資本主義の意味 P22～

1 資本主義とは何だろう ～5 「パイの送料の拡大・成長」と言う条件

#### 第11講：第2章 科学と資本主義 P38～

1 資本主義と近代科学の同型性 ～7 「科学国家」と「福祉国家」

##### 第3章 電腦資本主義と超（スーパー）資本主義 vs ポスト資本主義 P59～

1 資本主義あるいは工業化の空間的拡大 ～8 意識あるいは「思考する私」の根源

#### 第12講 第Ⅱ部 科学・情報・生命

##### 第4章 社会的関係性 P84～

1 アメリカの医学・生命科学研究政策 ～8 情報／コミュニティから生命

##### 第5章 自然の内発性 P103～

1 世界の全体をどう理解するかー非生命ー生命ー人間 ～7 近代科学の先にあるもの

#### 第13講 第Ⅲ部 緑の福祉国家／持続可能な福祉社会

##### 第6章 資本主義の現在 P126～

1 経済格差と「資本主義の多様性」 ～8 「生産性」概念の再考

##### 第7章 資本主義の社会化またはソーシャルな資本主義 P151～

1 社会的セーフティネットの進化

～9 富の源泉と税の意味ー資本主義・社会主義・エコロジーの交差

#### 第14講 第8章 コミュニティ経済 P177～

1 2つの座標軸 ～12 日本の位置と現在

#### 第15講 終章 地球倫理の可能性ーポスト資本主義における科学と価値 P217～

1 長い時間とローカリティーー地震予知と地域の神社

～11 ローカルな自然信仰とのつながり

おわりにーあとがき P255～

### 準備学習(予習・復習)

印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。

わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。提出されたレポートにて合否判定を行い、レポートの内容を考慮するが、科目試験結果による評価100%とする。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。

### 教科書

書名：人新世の科学 ニュー・エコロジーがひらく地平

著者名：オズワルド・シュミッツ 著，日浦 勉 訳

発行所：岩波書店  
ISBN：9784004319221

書名：ポスト資本主義 科学・人間・社会の未来  
著者名：広井 良典 著  
発行所：岩波書店  
ISBN：9784004315506

#### 参考書・参考 Web サイト

書名：人新世の資本論  
著者名：斎藤幸平  
発行所：集英社「集英社新書」

#### 関連授業科目

なし

#### その他

なし

#### 担当教員の実務経験

2006年度から2010年度の5年間、企業の環境管理責任者として企業活動により生ずる環境負荷を低減させるための実践活動を統括した。ISO9001（品質管理）、ISO14001（環境管理）の取得および維持管理実務を指揮した。2011年度から2016年度の6年間は、国立総合大学に全国で初めて設置されたサステナブルキャンパス推進本部特任准教授・プロジェクトマネージャーとして、2万2千人を超える構成員を擁する大学の教育研究活動により生ずる環境負荷を低減させるための実践活動を統括し、2015年度には大学運営への貢献が認められ北海道大学総長賞を受賞した。

また、2013年度、全国の研究教育機関の環境負荷低減活動の連携を図るため、CAS-Net Japan（キャンパスサステナビリティ・ネットワーク）の立ち上げに参画し、現在も顧問を務めている。

これらの実践活動を通じて得られた知見をもとに、地球規模の課題から地域的な課題まで取り扱う実践的解決能力の必要性やこれを獲得する術を学生に伝え、我々ひとりひとりが、課題解決を通じて自分自身のサステナビリティ学を組み上げることが重要であり未来世代への責務でもあること、そして自らが自らの力で未来社会を構想することが切に求められていることを教育する。

# モチベーションの科学 人のやる気はどこから来るのか？

ナンバリング 2 単位

DCS107



担当教員： 金間 大介

専 門

イノベーション論、マーケティング論、モチベーション・マネジメント 知財マネジメント論

出身校等

横浜国立大学 大学院 修了 博士（工学） バージニア工科大学 大学院 客員研究員

現 職

金沢大学 融合研究域融合科学系 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて	
<b>【試験時参照許可物】</b>	
一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。	
<b>科目の概要</b>	
モチベーションは人に行動を起こさせる源泉となるものであり、どの時代においても人が生きる上で欠かせない心理作用の 1 つとして注目されています。この講義は、モチベーション・マネジメントの入門的な位置づけにあります。モチベーションの研究は古くて新しいテーマで、アメリカの心理学系の研究者を中心に、多くの研究蓄積と理論化がなされてきました。本講義で指定したテキストは、それらの一部をなるべくわかりやすく紹介することを第 1 の目標として書き下ろしました。 またこのテキストは、タイトルにもある通り、知識創造性を高めるモチベーションに焦点を当てています。したがって、必然的に学習や仕事へのモチベーションが中心となっています。さらにテキストの終盤では、最近の科学研究成果も随所に登場します。今後、教育や仕事の現場では、どのようなモチベーション・マネジメントが求められるのか、テキストとともに一緒に考えてもらえたらと思います。 創造性の意味する範囲は非常に広いものがあります。一般に創造性というと、優れたアーティストや一部の天才のみが発揮するもの、という認識がありますが、学術的には創造性は万人に備わっているものとして捉えることの方が多くなっています。そこでここでは、日常にちょっとした変化を加えたり、仕事の生産性を高めたりする創造性も議論の対象としながら、学習を進めていきます。	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
モチベーションとは、日本語に訳すと「動機」「意欲」「やる気」のことで、人が一定の方向や目標に向かって行動するときには、欠かせない要因のことで、言うまでもなく、モチベーションは人間社会にとって大変重要な要因であるため、古くから研究されてきました。一方で、これらの研究成果から得られる知識と、現在の教育や経済社会の現場で行われていることの間には、大きなギャップが存在することが明らかになっています。 この講義では、モチベーションに関する理論を理解することを第一目標とした上で、どのようにしたら研究成果から得られた知識を、仕事や教育、社会生活の場でより良く活用できるかについても、洞察を深めていきます。	
<b>講義の方針・計画</b>	
以下に 15 回分の授業内を示します。ただし、下記はあくまでも目安として、学習の進捗については、個人のペースに合わせて管理して下さい。  第 1 回：モチベーションとは・創造性とは 第 2 回：学習のモチベーション 第 3 回：フロー理論	

第4回：内発的モチベーションと外発的モチベーション
第5回：公正理論・期待理論・承認欲求理論
第6回：競争とモチベーション
第7回：ハーズバーグの2要因理論
第8回：年齢と創造性の関係
第9回：学習性無力感
第10回：達成動機・パワー動機・親和動機
第11回：チャレンジ精神の源
第12回：職務発明報奨制度
第13回：職場におけるインセンティブ・システムのあり方
第14回：まとめ・考察・レポート執筆（1）
第15回：まとめ・考察・レポート執筆（2）
<b>準備学習（予習・復習）</b>
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価100%
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書名：モチベーションの科学：知識創造性の高め方（初版） 著者名：金間大介 発行所：創成社 ISBN：9784794424525
<b>参考書・参考Webサイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
2006年から2010年にかけて、民間企業の研究開発部門および民間のシンクタンクと合同で、共同調査事業に従事した。当該企業に所属する若手の研究者や技術者を対象に、彼らのモチベーション構造を解明するとともに、即時的にマネジメントに反映させる事業を実施した。また、当該企業の研究開発から事業化までを見据えたイノベーションモデルの構築に務めた。 本講義（および本テキスト）では、これらの知見・経験を盛り込み、社会人となっても活かせる知識の定着を目指す。

# ホスピタリティマネジメント ホスピタリティをプロフィットチェーンに繋げる

ナンバリング 2 単位

DCS116



担当教員： 中里 のぞみ

専門 ホスピタリティ、キャリア  
出身校等 北星学園大学 文学部英文学科  
現職 北海道情報大学 非常勤講師

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
教科書と学習用プリントの内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて	
【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。	
<b>科目の概要</b>	
経済において「サービス」の占める重要度は拡大傾向にある。ホスピタリティをいかに具現化し、いかに経営に活用していくかというホスピタリティマネジメントは企業経営には欠かせない。顧客満足との根幹ともいえるホスピタリティを理解し、また、組織の中におけるそのマネジメントを事例豊富に、実学的に学び考察を深める。	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
ホスピタリティマネジメントを学び、それを実践することができるようになる。	
<b>講義の方針・計画</b>	
教科書や学習プリントを参考にして「ホスピタリティ」について理解し、「企業の事例」なども参考にして「ホスピタリティマネジメント」について考察を深め、自分の置かれている状況でそれらを活用できるように学んでください。 興味のある企業などは、自律的にネットなどで調べてみるのも勉強になります。また、学習プリントで取り上げた企業については本も出版されているケースが多いので、そういったものも参考にするとよいでしょう。 教科書も通信教育の自学自習の中で、わかりやすく学び進められるように様々な事例を豊富に取り入れ、難しい内容であってもわかりやすい言葉で解説するように努めました。自分の言葉でまとめておくレポート作成の時に有益です。 時代は変化し、顧客のウォンツやニーズも変化し、それにともない顧客満足も変化しています。重要なことは自分の目の前にお客様に対して、その状況で自分にできる最大限のホスピタリティを具現化できるか否かです。 また、組織としてホスピタリティをどのようにマネジメントしていくか。あるいは、社員満足なくして顧客満足なしと言われるかもしれませんが、社員満足を高めるためにはどうすればよいか。様々な視点で考察することも必要となるでしょう。 自分がお客様の立場だったら、自分が社会人となってサービスを提供する立場だったら、現時点で社会人であれば、自分の仕事の中で顧客満足を高めるために今以上にできることはあるか・・・など、自分に当てはめて考察してみることも重要です。 教科書や学習用プリントを通して、自立的かつ自律的に学習してください。	
第 1 回：ホスピタリティの実践的意味とその背景① ～サービスとホスピタリティ～（第 1 章）	
第 2 回：ホスピタリティの実践的意味とその背景② ～ホスピタリティマインドとホスピタリティスキル～（第 1 章）	
第 3 回：ホスピタリティマネジメント① ～コミュニケーションを通してのマネジメント～（第 2 章）	
第 4 回：ホスピタリティマネジメント② ～社員満足と顧客満足～（第 2 章）	
第 5 回：ホスピタリティマネジメント③ ～サービス品質のマネジメント～（第 2 章）	
第 6 回：イレギュラリティへの対応① ～イレギュラリティと顧客満足～（第 3 章）	
第 7 回：イレギュラリティへの対応② ～イレギュラリティの具体的技術～（第 3 章）	
第 8 回：企業におけるホスピタリティの実践 ① ～亀田総合病院～（学習プリントと WEB サイト）	

第 9 回：企業におけるホスピタリティの実践② ～マザーハウス～（学習プリントと WEB サイト）
第 10 回：企業におけるホスピタリティの実践③ ～TESSEI～（学習プリントと WEB サイト）
第 11 回：企業におけるホスピタリティの実践④ ～星野リゾート～（学習プリントと WEB サイト）
第 12 回：企業におけるホスピタリティの実践⑤ ～加賀屋～（学習プリントと WEB サイト）
第 13 回：企業におけるホスピタリティの実践⑥ ～リッツカールトン～（学習プリントと WEB サイト）
第 14 回：サービスプロフィットチェーン（第 4 章）
第 15 回：総括（教科書と学習プリントの全体的な振り返りをする）
<b>準備学習（予習・復習）</b>
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価 100%
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書 名：ホスピタリティとホスピタリティマネジメント（初版） 著者名：中里 のぞみ 紺野 猷邦 発行所：株式会社パレード ISBN：9784434240249
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
学習プリントに掲載しています ※履修期間に参考 URL が変更になる場合もあります。随時お知らせしていきます。
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
1983 年～1988 年まで日本航空国際客室乗員部に勤務し、その経験を活かして 1989 年～現 CLDlabo を主宰し、企業・病院・商工会議所などでホスピタリティの心・知識・技術に関する研修を実施。また、産業カウンセラーとして就職支援・再就職支援・定着支援も担当し、ホスピタリティ産業に求められる人材・顧客満足についての指導をしています。接客要員としての経験と様々な業種の企業などに出講した経験から、より具体的にわかりやすく、授業を実施しています。通信教育においては、自学自習が基本となりますが、ホスピタリティマネジメントの理解がより深まるように、事例を豊富に取り入れてテキストを執筆しました。情報大学以外の大学・看護学校・高校においても「ホスピタリティマネジメント」以外の授業も担当しています。



担当教員： 伊東 正剛

専 門 マス・コミュニケーション論

出身校等 北海道大学法学部

現 職 元北海道新聞編集委員、北広島市国保運営協議会委員、林業

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて	
<p>【試験時参照許可物】</p> <p>一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>メディア・リテラシーとは、メディアの情報を批判的に読み解き、発信する能力をいいます。インターネットの普及に伴い、毎日膨大な情報量が私たちの日々の暮らしに押し寄せています。中でもフェイクニュース（虚偽ニュース）の問題は深刻です。メディアに煽られたり騙されたり、情報の海に溺れたりしないためには主体的に読み取る姿勢が欠かせません。加えてメディアの構造や特性、働きを理解することも重要な柱です。ニュースを読み、情報を発信するうえで心得ておくべき点を学んでもらいます。</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
<p>メディア・リテラシーの能力を身に付けて暮らしや社会に役立てるのが目標です。そのために具体的に三つの目標を設置します。第一に、ネット時代を迎え情報キャッチボールの基本をわきまえないと、情報の被害者になるばかりか加害者になる可能性もあると認識すること。第二に、人には自分の耳に心地よいニュースを聞きたがる傾向が強いことを意識しながら批判的に読み取る習慣を持つこと。第三に、既存メディアやポータルサイト、SNS など様々なメディアの長所と短所、ビジネスモデルを理解して活用することです。</p>	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>まず「10 代からの情報キャッチボール入門」を読み、「メディアなんて自己流に自由に使いこなせるものだ」と過信していると、誤った情報を真に受け止め発信して、あらぬ事態を招きかねないことを知ってもらいます。著者の下村健一さんが「使えるメディア・リテラシー」として提唱している「4 つのギモン」「4 つのジモン」を学びます。</p> <p>次に、鳥賀陽弘道さんが書いた「フェイクニュースの見分け方」を読んで、偽のニュースを掴まされないためにクロスチェックが必要なことを学んでもらいます。最後に「はじめてのニュース・リテラシー」をもとに、さまざまなメディアから発信される情報の役割や特性、影響力などを適切に理解する力を育み、情報の出所を確かめる習慣を心がけてもらいます。</p> <p>第 1 回：誤った受信、誤った発信          第 2 回：情報をしっかり受け取るための 4 つのギモン          第 3 回：情報をしっかり届けるための 4 つのジモン          第 4 回：スピンドクター          第 5 回：インテリジェンスの基本          第 6 回：発信者不明情報          第 7 回：空間軸と時間軸          第 8 回：フェアネスチェックの視点          第 9 回：ディープフェイクと情報のエコシステムの崩壊          第 10 回：陰謀論に陥らないために          第 11 回：フィルターバブルとエコーチェンバー</p>	

第 12 回：アウトプットを意識して情報を読む
第 13 回：情報ランチ定食
第 14 回：情報の「回数」を考える
第 15 回：メディアのこれから
<b>準備学習(予習・復習)</b>
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 60 時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 科目試験による評価 100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書 名：10 代からの情報キャッチボール入門 使えるメディア・リテラシー (初版) 著者名：下村健一 発行所：岩波書店 ISBN：9784000610414 書 名：フェイクニュースの見分け方 (初版) 著者名：烏賀陽弘道 発行所：新潮社 ISBN：9784106107214 書 名：はじめてのニュース・リテラシー 著者名：白戸圭一 発行所：筑摩書房 ISBN：9784480683984
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
書 名：世論 (上) (下) (文庫版) 著者名：W・リップマン 発行所：岩波書店 書 名：情報を活かす力 (新書版) 著者名：池上彰 発行所：PHP ビジネス新書 書 名：メディア不信 何が問われているのか (新書版) 著者名：林香里 発行所：岩波新書 書 名：フェイクニュースの生態系 著者名：藤代裕之編著 発行所：青弓社 書 名：ネットメディア覇権戦争 偽ニュースはなぜ生まれたか 著者名：藤代裕之著 発行所：光文社 書 名：ディープフェイク ニセ情報の拡散者たち 著者名：ニーナ・シック 発行所：日経ナショナルジオグラフィック社 書 名：オシント新時代 著者名：毎日新聞取材班 発行所：毎日新聞出版 書 名：僕らが毎日やっている最強の読み方

著者名：池上彰、佐藤優  
発行所：東洋経済新報社  
書名：「ポスト真実」時代のネットニュースの読み方  
著者名：松林薫  
発行所：晶文社  
書名：メディアと政治 改訂版  
著者名：蒲島郁夫、竹下俊郎、芹川洋一  
発行所：有斐閣

**関連授業科目**

なし

**その他**

メディア・リテラシーの実践として、複数の新聞を読み比べてください。自分に興味のあるテーマを選び記事の扱いや内容を比較しながら自分の感想や意見を付箋で貼り付けてみてください。

**担当教員の実務経験**

1984年から2011年まで北海道新聞社編集局に勤務。旭川、札幌、東京などで地方自治、地域経済、社会保障、首相官邸、経団連、宮内庁、大相撲の取材、執筆に携わる。1996年に1年間、ロシア・ハバロフスクに駐在してソ連崩壊後の極東地域の混乱を報道した。この間、1990年に国際ロータリー財団の奨学金を受けて1年間、スウェーデン・ストックホルム大学国際大学院に留学し、同国の政治と年金制度を研究。2018年12月から非常勤で北海道新聞くらし報道部に、2019年8月からはテレビ北海道（TVh）報道部に籍を置き、社会保障問題などを取材、執筆している。



担当教員： 綿谷 貴志

専 門 スポーツバイオメカニクス

出身校等 鹿屋体育大学大学院博士後期課程 単位取得退学

現 職 北海道情報大学 情報メディア学部 情報メディア学科 准教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
全 15 回の講義での学習範囲すべて	
<p>【試験時参照許可物】</p> <p>一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p>	
<b>科目の概要</b>	
身体の事について精神，肉体両面から幅広く理論的に理解を深める。	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
<p>情報社会の到来や社会環境の変化に伴い，国民の健康問題の様相も大きく変化してきている。現在，日本の平均寿命は男女ともに世界トップクラスであるが，現実に老後の心配がなく，健康に生き生き生活し，人生を全うしているとは考えにくい。様々な社会問題はあるがその根本に健康という基盤がなければ，豊かな人生とするのは困難である。この講義では，肉体，精神，そして社会的に健康に成るための方法を学ぶことを目的とする。</p>	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>第 1 回：今なぜ健康かーその現状と考え方ー</p> <p>第 2 回：現代社会の健康と健康状況</p> <p>第 3 回：健康とは何かー健康概念の変遷ー</p> <p>第 4 回：からだの健康</p> <p>第 5 回：運動不足と健康障害</p> <p>第 6 回：運動の身体的効果</p> <p>第 7 回：運動による健康づくり</p> <p>第 8 回：心の健康</p> <p>第 9 回：ストレスと健康</p> <p>第 10 回：運動・スポーツの心理的効果</p> <p>第 11 回：運動・スポーツによる心の健康づくり</p> <p>第 12 回：健康生活とスポーツ</p> <p>第 13 回：これからの生活と運動・スポーツ</p> <p>第 14 回：健康づくりのための運動</p> <p>第 15 回：スポーツ科学の基礎知識</p>	
<b>準備学習(予習・復習)</b>	
印刷授業は，教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが，授業範囲の内容の他に，教科書の内容全体を 1 単位で 45 時間かけて学習することを目安としています。わからない用語や内容は，参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。	
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価 100%	

<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書名：『新版 健康と運動の科学』 著者名：九州大学健康科学センター [編] 発行所：大修館書店 ISBN：9784469263893
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
青森県スポーツ科学センター スポーツ科学専門員

# 海外事情（アメリカ編）

ナンバリング 2 単位

DCS113



担当教員： Simon Thollar

専門

英会話一般、英語の発音、e-learning 一般、動機づけ 一般、教育法

出身校等

タスマニア大学教育学部卒業 タスマニア大学経営文学士、タスマニア大学特別教育修士 英国国立シェフィールド大学日本研究修士

現職

北海道情報大学 経営情報学部 教授

<b>授業形態</b>	前期面接授業 8月に3週間程度の英語研修をアメリカ合衆国オレゴン州のポートランド州立大学（以下 PSU）で行う。
<b>授業範囲</b>	
なし	
<b>試験期間</b>	
試験実施なし	
<b>試験範囲</b>	
なし	
<b>科目の概要</b>	
<p>・海外事情アメリカ編は、英語圏であるアメリカにおいて、習得した英語の基礎力をさらに実践の場で活用するための短期集中研修です。そのためには、英語力だけでなく、アメリカの地理や文化などの背景知識を確認する必要があります。また、アメリカの学生や市民と交流するためには、日本の地理や文化についての基礎知識も確認する必要があります。（そのため、2～4回の事前授業が予定されている。）</p> <p>・具体的な計画は4月か5月に掲示され、受講希望者は通常の登録期間とは別に、掲示されたスケジュールに従って講師の承認を得て受講登録手続きを行う必要がある。</p> <p>・現地授業（ショアライン・コミュニティ・カレッジ）では、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを行いますので、頑張ってください！授業は通常午前中に行われ、午後は文化イベントやツアーがあります。</p> <p>・海外事情アメリカ編は、いくつかのITスタディ／ワークショップを行います。大手IT企業（マイクロソフトなど）への訪問、プログラミング・ワークショップへの参加、ITメディア／音楽研究所への訪問などが含まれます。</p> <p>-----</p> <p>----&gt; 事前授業以外、本学での海外事情報告会(12月)もあります。どちらも必須です。(ZOOMの利用予定)</p> <p>----&gt; ホスト学校（留学先）の都合で、授業計画が変わる可能性があります。</p> <p>----&gt; 正科生Bのみ履修可能。正科生A、科目等履修生の履修不可。</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
英語だけの環境に身を置くことにより、現時点での自己の英語力を認識し、今後の英語学習の方向性を見つけてもらうことと、外国人とのコミュニケーション・海外旅行に慣れてもらうことを目標としています。	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>・8月上旬よりショアライン・コミュニティ・カレッジ(Shoreline Community College)で3週間の英語研修を行う。本学学生のみ（HIUと教育センターの学生）のクラス編成で、ショアラインの経験豊富な講師が担当し、講義はすべて英語で行われる。講義は、「聞く」「話す」の能力を総合的に伸ばすように工夫されている。</p> <p>・講義、諸活動、ホームステイと生きた英語のシャワーを浴びることで、英語で会話することへの心理的負担を軽くし、コミュニケーションの手段として英語が通じる喜びを味わってもらうことを主眼としている。また、研修全体を通して、アメリカ人の日常生活に触れると同時にアメリカの社会と文化への関心・理解を喚起・深化させてもらうことも重要な目的となっている。</p> <p>・海外事情アメリカ編は、英語圏であるアメリカにおいて、習得した英語の基礎力をさらに実践の場で活用するための短期集中研修です。そのためには、英語力だけでなく、アメリカの地理や文化などの背景知識を確認する必要があります。ま</p>	

た、アメリカの学生や市民と交流するためには、日本の地理や文化についての基礎知識も確認する必要がある。（そのため、2～4回の事前授業が予定されている。事前授業は必須です。）

・具体的な計画は5月に掲示され、受講希望者は通常の登録期間とは別に、掲示されたスケジュールに従ってクラス担任の承認を得て受講登録手続きを行う必要がある。

・現地授業（ショアライン・コミュニティ・カレッジ）では、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを行いますので、頑張ってください！授業は通常午前中に行われ、午後は文化イベントやツアーがありません。

・海外事情アメリカ編は、いくつかのITスタディ/ワークショップを行います。大手IT企業（マイクロソフトなど）への訪問、プログラミング・ワークショップへの参加、ITメディア/音楽研究所への訪問などが含まれます。

\*\*\*\*

・参加人数が限られていますので、応募者が多い場合には面接（インターネット上）で決めます。上の学年の学生を優先する場合があります。

### 準備学習(予習・復習)

研修先へ行く前に配付する資料を元に事前学習を行う。（2～4回）

### 成績評価の方法およびその基準

次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価する。<br/>グループワークについては、グループ内での行動について自己評価および相互評価を行い、その結果を考慮して担当教員が採点を行う。<br/>■事前授業：20% <br/>■レポート：30%（帰国後に提出となる）<br/>■その他：30%（現地語学研修機関での成績）<br/>■報告会でのプレゼンテーション：20% <br/><br/>レポートと報告会での発表は必須です。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前授業が終わったら、資料（宿題等）、採点して、返します。

発表会(12月)でレポートの点数を教えます。

発表会でディブリーフィングセッションがあります。

### 教科書

なし

### 参考書・参考Webサイト

なし

### 関連授業科目

なし

### その他

ショアラインコミュニティカレッジより正式に研修参加者の成績評価を受ける。

レポートもある。

レポートの枚数ですが、A4で4枚です。

1枚あたり、4枚までの写真添付をして、それに対してのレポート文を英語もしくは日本語で書いてください。

- (1) 全体的な感想
- (2) ホームステイについて
- (3) 一番楽しかった思い出
- (4) アメリカとの文化の違いを感じたことについて

これはガイドラインなので、少し自分の好きなようにアレンジしてもOKです。英語で書く場合は、翻訳ツールに頼らず英文を作成してください。翻訳ツールの

英文はおかしな文章になるので

自分で考えた英文のほうがベターです。

日本語でも問題ありませんが、英語で書いたほうが点数は高くなります。  
頑張りましょう！

### **担当教員の実務経験**

Simon Thollar:

Native speaker

Published 3 text books

Taught over 30,000 university students

Over 10 presentations at international language conferences

Teaching in universities over 30 years

Involved with e-Learning for over 25 years

Summer overseas programs coordinator

Based on the above, the aim of this course is to help you understand and enjoy English.

# 海外事情（中国編）

ナンバリング 2 単位

DCS114



担当教員： 田中 英夫

専門

貿易論・国際関係論・国際経営論・中国語・中国ビジネス論

出身校等

大阪市立大学大学院経営学研究科商学専攻後期博士課程修了（商学博士）

現職

北海道情報大学 教授

<b>授業形態</b>	前期面接授業 8月に20日間程度の中国語研修を中国の南京大学で行う。
<b>授業範囲</b>	研修で使用する教科書は、南京大学より配付されるので、授業範囲もその教科書になります。
<b>試験期間</b>	試験実施なし
<b>試験範囲</b>	研修で使用する教科書は、南京大学より配付されるので、試験範囲もその教科書になります。
<b>科目の概要</b>	<p>テーマ： 南京大学での中国語会話能力の養成と異文化理解の体得</p> <p>この科目は、実際に学生各自が中国の南京大学における語学研修に参加し、また二日間程度の研修旅行を通して、彼らが実践的な中国語を体得し、かつ現代中国事情と中国文化に対する理解も一層深めることを目的としています。また、学生各自が異文化を理解する能力を向上させると同時に、国際的視野と見識も確実に養成してゆくねらいもあります。</p> <p>本年度も、本学と学術交流協定を結んでいる南京大学で、夏季休暇期間に3週間の中国語研修を実施する予定です。具体的な実施計画案及び参加資格については、5月頃から、学内に掲示するので、参加希望者は、必ず担当教員の正式な承諾を得てから、各自の履修届けを提出することです。</p> <p>なお、研修の参加者には、人数制限が設けられているので、場合によっては、一部の学生には、当該科目の履修が許可されないこともあります。また、中国語研修及び研修旅行の日程などは、様々な事情により、計画が変更される可能性もあるので、十分に注意して欲しい。</p>
<b>科目における学修の到達目標</b>	現地における実践的な中国語の習得及び研修旅行などを通して、学生各自が現代中国事情や中国文化に対する理解を深めてゆくと同時に、彼らの異文化理解能力と国際的視野及び見識なども大いに養成させたい。
<b>講義の方針・計画</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・夏期休暇期間に3週間程度開催される海外事情（中国語編）の方針と計画（5月頃掲示）に基づきます。</li><li>・「南京大学短期留学プログラム」の内容を把握します。</li><li>・「南京大学短期留学プログラム」（キャンパス見学と南京市内観光など）に参加します。</li></ul>
<b>準備学習（予習・復習）</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・教科書や学習プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。</li><li>・わからない用語や内容は、参考文献などで検索することが準備学習として必要になります。</li></ul>
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。  ■現地の研修成績：70% ■レポート（研修日記）：20% ■現地の研修態度10%（積極性など）
<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</b>	レポート（研修日記など）提出後、修正が必要な場合、メールで連絡します。
<b>教科書</b>	研修で使用する教科書は、南京大学より配付されます。

<b>参考書・参考 Web サイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
なし

# 海外語学・文化研修（中国大連編）

ナンバリング 1 単位

DCS115



担当教員： 田中 英夫

専 門

貿易論・国際関係論・国際経営論・中国語・中国ビジネス論

出身校等

大阪市立大学大学院経営学研究科商学専攻後期博士課程修了（商学博士）

現 職

北海道情報大学 教授

<b>授業形態</b>	前期面接授業 8月に中国語研修を中国の大連で行う。
<b>授業範囲</b>	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。
<b>試験期間</b>	試験実施なし
<b>試験範囲</b>	「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。
<b>科目の概要</b>	<p>テーマ：現代中国の言語と文化及び習慣について学びます。</p> <p>本学と学士課程学生教育に関する共同プロジェクト実施協定を結んでいる大連東軟信息学院で、夏期休暇期間に2週間程度開催される中国語・中国文化研修（「大連東軟信息学院短期留学プログラム」）に参加する授業です。</p> <p>具体的な実施計画案及び参加資格については、5月頃から案内します。</p> <p>なお、当該科目の単位は、現地に行って研修した学生にしか認定しないので、履修届は年度始めではなく、研修が決定した後、指定された期間内に提出することになります。</p>
<b>科目における学修の到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大連での実践的な中国語の習得を通じて、日常生活における中国語を理解できる力を養います。</li> <li>・大連での異文化体験や研修旅行を通じて、中国の地理や文化に関する基礎知識を習得します。</li> </ul>
<b>講義の方針・計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期休暇期間に2週間程度開催される中国語・中国文化研修の方針と計画（5月頃案内）に基づきます。</li> <li>・「大連東軟信息学院短期留学プログラム」の内容を把握します。</li> <li>・「大連東軟信息学院短期留学プログラム」（キャンパス見学と大連市内観光など）に参加します。</li> </ul>
<b>準備学習(予習・復習)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や学習プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書内容全体を1単位で45時間かけて学習することを目安としています。</li> <li>・わからない用語や内容は、参考文献などで検索することが準備学習として必要になります。</li> </ul>
<b>成績評価の方法およびその基準</b>	<p>次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。次項の項目及び割合で標準評価基準に基づき総合評価します。&lt;br /&gt; ■現地の研修成績：70% ■レポート（研修日記）：20% ■現地の研修態度 10%（積極性など）</p>
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>	レポート（研修日記など）提出後、修正が必要な場合、メールで連絡します。
<b>教科書</b>	研修で使用する教科書は、大連東軟信息学院より配付されます。
<b>参考書・参考 Web サイト</b>	なし
<b>関連授業科目</b>	なし

<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
なし

# 英語Ⅰ（初級英語読解） 日常会話に役立つ表現をマスターしよう

ナンバリング 2 単位

DFL101



担当教員： C.Mclarty

専 門

言語学、英語学、異文化間のコミュニケーション

B.A.-Portland State University ( アメリカ、オレゴン州、ポートランド市 )、

出身校等

M.A.-Monterey Institute of International Studies ( アメリカ、カリフォルニア州、モンテレー市 )

現 職

北海道情報大学 経営情報学部 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業・後期面接授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて	
<p>【印刷授業：試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p> <p>【面接授業：試験時持ち込み許可物】 一切自由</p> <p>【試験に関する注意事項】 教科書は必ず参照（または持ち込み）して下さい。</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>In this course students will be able to improve their English with a variety of reading, writing, speaking and listening activities. By using the exercises in this course students will become able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* Give their opinions</li> <li>* Make requests</li> <li>* Complain politely</li> <li>* Survive abroad</li> <li>* Speak more freely</li> <li>* Find new friends</li> </ul> <p>Since most of the textbook drills are not very difficult, students can master this material if they have a high school level background in English. There will be a review and a test.</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
The purpose of this course is to help students gain basic survival skills in English.	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>第 1 回：Chapter 1 – Introductions: Getting Acquainted          第 2 回：Chapter 2 – Dinner with Miyu’s Host Family          第 3 回：Chapter 3 – Talking About Classes and Studies          第 4 回：Chapter 4 - Shopping          第 5 回：Chapter 5 – Getting Out for Dinner          第 6 回：Chapter 6 – Miyu’s Part-time Job          第 7 回：Chapter 7 – At The Blazer Game          第 8 回：Review Chapter A – Review of Chapters 1-7          第 9 回：Chapter 8 – Poking Around at Saturday Market          第 10 回：Chapter 9 – A Change of Pace</p>	

第 11 回 : Chapter 10 – The Portland-Sapporo Sister City Party
第 12 回 : Chapter 11 – The Final Examination
第 13 回 : Chapter 12 - Communication
第 14 回 : Chapter 13 – Miyu’s Farewell Speech at Portland International Airport
第 15 回 : Review Chapter B – Review of Chapters 8-13
<b>準備学習(予習・復習)</b>
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。  面接授業において、以下の準備学習を行う。 (予習) 聴講前に、教科書の該当箇所を目を通してください。 (復習) 聴講後に、教科書の該当箇所を読んで、確認してください。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 科目試験による評価 100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却します。
<b>教科書</b>
書 名 : Hang In There! Elementary Conversation in English (初版) 著者名 : Charles McLarty 発行所 : 丸善プラネット ISBN : 9784863451223
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
重要米語イディオム 1200 by Chris Cataldo and 藤井基精 日本英語教育協会
<b>関連授業科目</b>
英語 II, III, IV, V
<b>その他</b>
Good luck with your English
<b>担当教員の実務経験</b>
The instructor, who possesses over 30 years of experience teaching English in the U.S. and Japan, will provide students with sufficient opportunities to improve their English listening, speaking, reading and writing skills during the course of this study program.

# 英語 II (初級英会話) 中高で習った英語を英会話で使いましょう！

ナンバリング 2 単位

DFL102



担当教員： Simon Thollar

専 門

英会話一般、英語の発音、e-learning 一般、動機づけ 一般、教育法

出身校等

タスマニア大学教育学部卒業 タスマニア大学経営文学士、タスマニア大学特別教育修士 英国国立シェフィールド大学日本研究修士

現 職

北海道情報大学 経営情報学部 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業・前期 IP メディア授業・前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて	
<p>【印刷授業・IM 授業：試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p> <p>【IP メディア授業：試験時持ち込み許可物】 辞書（電子辞書も可）のみ</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>この授業は会話が基本です。文法に縛られた英語学習から解放することを意図した講義で、さまざまな場面を想定した表現法を紹介します。e-Learning の場合は、よく chapter movie を見て下さい。わからないことがあれば、すぐに質問する姿勢が大切です。</p> <p>IP メディア授業：毎週、英語と日本語で、ノートにテキストのメインポイントを書かなければなりません。</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
この授業は基本の会話を習得することを目標とします。学生は基本的な文法をすでに習得していると思われるので、文法よりも会話(communication)に重点をおいています。	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>全ての講義でテキストを使います。テキストは chapter1 から chapter14 まであります。会話を基本とし、話すことに重点をおくので、繰り返し練習すること。</p> <p>&lt;学習方法&gt;</p> <p>(1) chapter dialogue (English Story &amp; Japanese Story)を読む。</p> <p>(2) key sentence の説明を理解する。</p> <p>(3) student exercises を解く。</p> <p>(4) 次の chapter にすすむ。</p> <p>(注) 印刷授業の場合はレポート提出の前に、テキストを読み終えておくこと。またレポートの回答はテキストを参考にすること。</p> <p>(注) e-Learning の場合は、chapter の問題/選択問題を必ず解くこと。</p> <p>(注) スクーリングの場合は、講義の流れに従って、積極的に発言すること。</p> <p>&lt;ながれ&gt;</p> <p>第 1 回： Chapter 1 "How you doing?" 挨拶</p> <p>第 2 回： Chapter 2 "This is Paul." 人と会う</p> <p>第 3 回： Chapter 3 "You doing anything?" 予定</p>	

第 4 回： Chapter 4 "Let's go out!" 招待
第 5 回： Chapter 5 "What can I get you?" 外食
第 6 回： Chapter 6 "Got a tissue?" 持っている
第 7 回： Chapter 7 "Crazy about Eric." 好み
第 8 回： Chapter 8 "Is John there?" 電話
第 9 回： Chapter 9 "What's wrong with me?" 病気
第 10 回： Chapter 10 "Never heard of it." 経験
第 11 回： Chapter 11 "In 2 weeks?" 過去未来
第 12 回： Chapter 12 "I've been waiting." どのくらい
第 13 回： Chapter 13 "Gotta go!" 提案
第 14 回： Chapter 14 "Take care!" 別れ
第 15 回： まとめ もう一度 key sentence を読むこと。(IP メディアの場合、模擬試験)
<b>準備学習(予習・復習)</b>
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。  印刷授業以外の授業形態において、以下の準備学習を行う。 (予習) 聴講前に、教科書の該当箇所を目を通してください。 (復習) 聴講後に、教科書の該当箇所を読んで、確認してください。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。印刷授業・IM 授業 試験：100% <w:br />IP メディア授業 試験：55%、ノート：15%、宿題：30% (宿題は学生がネット上で直接に提出します。)
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書 名：Simon Says -Basic English Conversation for Young Adults- (第 2 版) 著者名：Simon Thollar 発行所：丸善プラネット ISBN：9784863454187
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
なし
<b>その他</b>
学習用プリントはありません。 印刷授業のレポート課題は、下記「レポート課題」をダウンロードして表示される案内文書を確認してください。
<b>担当教員の実務経験</b>
Simon Thollar: Native speaker Published 3 text books Taught over 30,000 university students Over 10 presentations at international language conferences Teaching in universities over 30 years Involved with e-Learning and effective Instructional design for over 25 years Based on the above, the aim of this course is to help you understand and enjoy English.



担当教員： 竹内 典彦

専門 英語教育、グローバル人材育成教育

出身校等 筑波大学大学院

現職 北海道情報大学 経営情報学部 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業・後期面接授業・前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の (p25～p26、p31～p32、p37～p38、p43～p44、p49～P50、p61～p62、p73～p74、p85～p86) まで	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
教科書の授業範囲の内容すべて	
<p>【印刷授業・IM 授業：試験時参照許可物】</p> <p>一切自由 ※ただし Web ページ (通信教育部 POLITE を除く) と生成系 AI の参照は不可とする。</p> <p>【面接授業：試験時持ち込み許可物】</p> <p>一切自由</p> <p>【試験に関する注意事項】</p> <p>和訳問題があります。教科書を和訳できるように準備してください。英語で回答する設題があります。80 語程度以上を書いてください。日本語で回答する設問は、句読点を含めて 200 字程度以上を書いてください。</p> <p>「感想を述べなさい」という設問は、実際は「ユニットのテーマについて考察しなさい」という趣旨です。句読点を含めて 300 字程度以上書いてください。どの設題も、「できるだけ簡潔に回答する」ということを期待していません。必要に応じた量を書いてください。</p> <p>試験では、教科書の内容をよく理解していなければ、合格点はとれません。真剣に準備をして取り組んで下さい。ChatGPT などの生成系 AI が登場しました。教科書の内容や情報に基づく回答でなければいけません。この科目は英語の科目ですから、英語の教科書を読むことが前提だからです。</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>英語 III (中級英語読解) では、アメリカが産んだ魅力的な人物やビジネス、そして文化や地域にスポットを当てて、学んでいきましょう。世界的に有名な事物、人物を英語で学んでいきます。</p> <p>グローバル感覚は全てがよしというわけではありませんが、世界というものを身近に感じられる全方向感覚を持てるように、全力で Let's start!!</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
<p>英語の読解力を養成します。英文の構造、文法や構文、単語や熟語等の英文を構成する要素を理解できるようになること。テキストの内容を理解したうえで、日本語に訳したり、英問英答 (教科書に関する英語による質問に、英語で記述回答) ができるようになること。教科書に関する日本語による質問にも、教科書の内容や情報に基づいて、論理的に回答できること。ユニットのテーマについて、問題意識をもって考察できること。</p>	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>英和辞典・和英辞典を使いこなす英語大好き (ちょっとだけでも) 人間になりましょう。</p> <p>指定ユニット (章)。余力のある人は他のユニットも目を通して下さい。学生の関心、興味ある章を選択してありますので、ページを間違えないように注意してください。</p> <p>第 1 回：p25～p26 Steve Job's Legacy (スティーブ・ジョブズ) 本文を全て日本語に訳し、内容を理解する。</p> <p>第 2 回：学習プリントを参考にしつつ、題材の深い理解に努める。</p>	

<p>第3回：p31～p32 Disney and Marvel（ディズニーとマーベル）本文を全て日本語に訳し、内容を理解する。</p> <p>第4回：学習プリントを参考にしつつ、題材の深い理解に努める。</p> <p>第5回：p37～p38 The Appeal of Aloha（アロハの魅力）本文を全て日本語に訳し、内容を理解する。</p> <p>第6回：学習プリントを参考にしつつ、題材の深い理解に努める。</p> <p>第7回：p43～p44 New York City（ニューヨーク）本文を全て日本語に訳し、内容を理解する。</p> <p>第8回：学習プリントを参考にしつつ、題材の深い理解に努める。</p> <p>第9回：p49～P50 Los Angeles（ロサンゼルス）本文を全て日本語に訳し、内容を理解する。</p> <p>第10回：学習プリントを参考にしつつ、題材の深い理解に努める。</p> <p>第11回：p61～p62 Starbucks（スターバックス）本文を全て日本語に訳し、内容を理解する。</p> <p>第12回：学習プリントを参考にしつつ、題材の深い理解に努める。</p> <p>第13回：p73～p74 Amazon.com（アマゾン）本文を全て日本語に訳し、内容を理解する。</p> <p>第14回：学習プリントを参考にしつつ、題材の深い理解に努める。</p> <p>第15回：p85～p86 Facebook（フェイスブック）和訳と学習プリントで深く理解する。</p>
<p><b>準備学習(予習・復習)</b></p> <p>印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を2単位で90時間かけて学習することを目安としています。</p> <p>わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。</p> <p>印刷授業以外の授業形態において、以下の準備学習を行う。</p> <p>（予習）聴講前に、教科書の該当箇所を目を通してください。</p> <p>（復習）聴講後に、教科書の該当箇所を読んで、確認してください。</p>
<p><b>成績評価の方法およびその基準</b></p> <p>次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価100%</p>
<p><b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b></p> <p>印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>書名：Iconic America（知られざるアメリカの今）（初版）</p> <p>著者名：Jeffrey Miller、萱 忠義</p> <p>発行所：成美堂 2013年1月20日初版</p> <p>ISBN：9784791912858</p>
<p><b>参考書・参考Webサイト</b></p> <p>なし</p>
<p><b>関連授業科目</b></p> <p>なし</p>
<p><b>その他</b></p> <p>特記事項：常に新聞、テレビ、本、映画などで世界的な新しい知識、事実を貴方の中で増やして行って下さい。“TO SEE IS TO BELIEVE.”（百聞は一見に如かず）</p>
<p><b>担当教員の実務経験</b></p> <p>実務経験なし</p>

# 英語 IV (中級英会話) 英語でよく出る言葉の色々な使い方を覚えましょう!

ナンバリング 2 単位

DFL104



担当教員: Simon Thollar

専門

英会話一般、英語の発音、e-learning 一般、動機づけ一般、教育法

出身校等

タスマニア大学教育学部卒業 タスマニア大学経営文学士、タスマニア大学特別教育修士 英国国立シェフィールド大学日本研究修士

現職

北海道情報大学 経営情報学部 教授

<b>授業形態</b>	前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業・後期 IP メディア授業
<b>授業範囲</b>	教科書の内容すべて
<b>試験期間</b>	シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照
<b>試験範囲</b>	授業範囲すべて  【IM 授業：試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ (通信教育部 POLITE を除く) と生成系 AI の参照は不可とする。 【IP メディア授業：試験時持ち込み許可物】 辞書 (電子辞書も可) のみ
<b>科目の概要</b>	この授業は会話の基本です。文型等の表現法は、さまざまな場面を想定したモデルを通して紹介します。この講義で紹介する英語は、現在使われている熟語やスラングも含み、実際の英会話を反映するものを選んでいきます。e-Learning の場合は、よく chapter movie を見て下さい。スクーリングの場合は、授業に取り組む姿勢が問われますので、気合いを入れてスクーリングに参加するようにして下さい。 IP メディア授業：毎週、英語と日本語で、ノートにテキストのメインポイントを書かなければなりません。
<b>科目における学修の到達目標</b>	この授業は会話力をさらに向上させるコースです。すでに習得している会話力や聞き取りなどをもっと発展させることを重点としています。学生は英語 II で基本的な会話をすでに習得していると思われるので、会話力をさらに上達させることが目標です。
<b>講義の方針・計画</b>	全ての講義でテキストを使います。テキストは chapter1 から chapter14 まであります。会話を基本とし、話すことに重点をおくので、繰り返し練習すること。  <学習方法> (1) chapter movie (on-line か CD)を見る。 (2)key sentence の説明を理解する。 (3)student exercises を解く。 (4) 次の chapter にすすむ。 (注) e-Learning の場合は、chapter の問題/選択問題を必ず解くこと。 (注) スクーリングの場合は、講義の流れに従って、積極的に発言すること。  <ながれ> 第 1 回: Use of the word "how" 第 2 回: Use of the word "what" 第 3 回: Use of the word "take" 第 4 回: Use of the word "have"

第 5 回： Use of the words "there is/are, many/much"
第 6 回： Use of the words "it, that, one"
第 7 回： Use of the word "get"
第 8 回： Use of the word "give"
第 9 回： Use of the words "say/speak/tell"
第 10 回： Use of the words "see/watch/look"
第 11 回： Use of "almost/nearly/just about"
第 12 回： Use of numbers, quantities & qualities
第 13 回： Use of tag questions
第 14 回： Use of the words "come/go"
第 15 回： Revision of previous chapters
<b>準備学習(予習・復習)</b>
以下の準備学習を行う。 (予習) 聴講前に、教科書の該当箇所に目を通してください。 (復習) 聴講後に、教科書の該当箇所を読んで、確認してください。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。IM 授業 試験：100% <w:br />IP メディア授業 試験：55%、ノート：15%、宿題：30% (宿題は学生がネット上で直接に提出します。)
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
IM 授業は、練習問題を解答すると、解答に応じたコメントを画面に表示する。
<b>教科書</b>
書 名：HOBBYMAN (第 3 版) 著者名：Simon Thollar 発行所：丸善プラネット ISBN：9784863455573 注意事項： ※2024 年度から、第 3 版が発行となりました。 一般書店で入手できない場合は、マイページから指定書店(紀伊國屋書店北海道営業部)へお申し込みください。(既に第 2 版をお持ちの方は、購入し直す必要はありません。)
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
「英語 II (初級英会話)」を履修済であることが望ましい。
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
Simon Thollar: Native speaker Published 3 text books Taught over 30,000 university students Over 10 presentations at international language conferences Teaching in universities over 30 years Involved with e-Learning for over 25 years Summer overseas programs coordinator Based on the above, the aim of this course is to help you understand and enjoy English.

# 英語 V (実用英語) イデオムで英語のコミュニケーションを楽しもう

ナンバリング 2 単位

DFL105



担当教員 : C.Mclarty

専 門 言語学、英語学、異文化間のコミュニケーション

B.A.-Portland State University ( アメリカ、オレゴン州、ポートランド市 ),

出身校等 M.A.-Monterey Institute of International Studies ( アメリカ、カリフォルニア州、  
モンテレー市 )

現 職 北海道情報大学 経営情報学部 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業・前期面接授業
<b>授業範囲</b>	
教科書の内容すべて	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
授業範囲すべて	
<p>【印刷授業：試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ (通信教育部 POLITE を除く) と生成系 AI の参照は不可とする。</p> <p>【面接授業：試験時持ち込み許可物】 一切自由</p> <p>【試験に関する注意事項】 教科書は必ず参照 (または持ち込み) して下さい。</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>In this course students will learn a variety of idiomatic phrases, slang and informal expressions now current in American English. With the new expressions students will be able to confidently handle, many situations in daily life in English speaking countries such as:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* Expressing surprise or disbelief</li> <li>* Showing uncertainty or hesitation</li> <li>* Giving advice or encouragement</li> <li>* Discussing past or future events</li> </ul> <p>The text's setting is Portland State University in Portland, Oregon, the American sister city of Sapporo, where Yoshie Karasawa is an exchange student. Through Yoshie's experiences and adventures students will see how the new expressions are used in American life.</p> <p>The text will give students a chance to use the expressions actively and to get reading writing, listening and speaking practice. There will be a review and a test.</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
The purpose of this course is to help students improve their intermediate level communication skills in English.	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>第 1 回 : Chapter 1 – Studying Abroad: To Go or Not To Go</p> <p>第 2 回 : Chapter 2 – Welcome Party for New Students</p> <p>第 3 回 : Chapter 3 – Talking About Teachers and Classes</p> <p>第 4 回 : Chapter 4 – Hitting The Town</p> <p>第 5 回 : Chapter 5 – The Business Presentation: Yoshie Makes It Happen</p> <p>第 6 回 : Chapter 6 – Voodoo Doughnut: The Taste of Portland</p> <p>第 7 回 : Chapter 7 – The Major League: Seattle Mariners vs Portland Pythons</p> <p>第 8 回 : Review Chapter A- Review of Chapters 1-7</p>	

第 9 回 : Chapter 8 – Yoshie's Part-time Job at The P.S.U. Bookstore
第 10 回 : Chapter 9 - Shopping Around at The Lloyd Center
第 11 回 : Chapter 10 - Tests, Tests, Tests: Yoshie's Paper Chase
第 12 回 : Chapter 11 - At The Oregon Coast: Getting Away from The Rat Race
第 13 回 : Chapter 12 - The Portland-Sapporo Sister City Speech Contest
第 14 回 : Chapter 13 - At Portland international Airport: Yoshie's Big Surprise
第 15 回 : Review Chapter B – Review of Chapters 8-13
<b>準備学習(予習・復習)</b>
印刷授業は、教科書や学習用プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書の内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。 わからない用語や内容は、参考文献等で検索することが準備学習として必要になります。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。 科目試験による評価 100%
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>教科書</b>
書 名 : Make It Happen-Intermediate Conversation in English (初版) 著者名 : Charles McLarty 発行所 : 丸善プラネット ISBN : 9784863454484
<b>参考書・参考 Web サイト</b>
重要米語イディオム 1200 by Chris Cataldo and 藤井基精 日本英語教育協会
<b>関連授業科目</b>
英語 I, II, III, IV
<b>その他</b>
Good luck with English
<b>担当教員の実務経験</b>
The instructor, who possesses over 30 years of experience teaching English in the U.S. and Japan, will provide students ample opportunities to improve their use of idiomatic English based on the four skills of listening, speaking, reading and writing.



担当教員： 田中 英夫

専 門

貿易論・国際関係論・国際経営論・中国語・中国ビジネス論

出身校等

大阪市立大学大学院経営学研究科商学専攻後期博士課程修了（商学博士）

現 職

北海道情報大学 教授

<b>授業形態</b>	前期印刷授業・後期印刷授業・前期 IP メディア授業・前期インターネットメディア授業・後期インターネットメディア授業
<b>授業範囲</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「発音編」の範囲は初級中国語の母音（36 個）、子音（21 個）、四声、軽声、音節の仕組みなど</li> <li>・「文法編・読解編」の範囲は単語・文法・本文・練習問題など</li> <li>・「会話編・中国語の豆知識編」の範囲はコラボ型会話で使う主要「助詞・副詞・介詞・助動詞」（9 個）など</li> </ul>	
<b>試験期間</b>	
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024 学年暦」を参照	
<b>試験範囲</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 冊の指定教科書が範囲です。</li> <li>・ 2 冊の指定教科書本文と語法からでるが、リスニングはありません。</li> </ul> <p>【印刷授業・IM 授業：試験時参照許可物】 一切自由 ※ただし Web ページ（通信教育部 POLITE を除く）と生成系 AI の参照は不可とする。</p> <p>【IP メディア授業：試験時持ち込み許可物】 一切自由</p>	
<b>科目の概要</b>	
<p>テーマ 基礎から初級程度の中国語の習得</p> <p>概要 この講義では、授業担当者自身が書いた 2 冊の教科書を使い、初級中国語の発音・文法・読解の基礎を習得すると同時に、日常会話能力の養成も図りたいです。</p>	
<b>科目における学修の到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初級中国語の母音、子音、四声、軽声、音節の仕組みなどを簡潔に解説し、正確な発音を習得します。</li> <li>・ 単語・文法・本文・練習問題などの学習を通じて、初級中国語の文法と読解力を高めます。</li> <li>・ コラボ型会話で使う主要「助詞・副詞・介詞・助動詞」（9 個）の学習を通じて、初級中国語の日常会話力を高めます。同時に、中国語の豆知識も身に付けます。</li> </ul>	
<b>講義の方針・計画</b>	
<p>I 「発音編」の方針 初級中国語の母音、子音、四声、軽声、音節の仕組みなどを簡潔に解説し、正確な発音を習得します。</p> <p>II 「文法編・読解編」の方針 単語・文法・本文・練習問題などの学習を通じて、初級中国語の文法と読解力を高めます。</p> <p>III 「会話編・中国語の豆知識編」の方針 コラボ型会話で使う主要「助詞・副詞・介詞・助動詞」（9 個）の学習を通じて、初級中国語の日常会話力を高めます。同時に、中国語の豆知識も身に付けます。</p> <p>具体的な講義の計画は以下の通りです。</p> <p>第 1 回：発音編（その 1）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国と中国語の基礎知識</li> <li>2. 母音（36 個）とは何か？</li> </ol>	

3. 子音 (21 個) とは何か?

第 2 回: 発音編 (その 2)

1. 母音 (36 個) と子音 (21 個) の総合復習
2. 「音節の仕組み」と「音節の綴りの規則」の解説
3. 発音編課題の解答記入 (受講者) と解答の解説 (担当者)

第 3 回: 文法編・読解編 (第 1 課の単語、文法、本文、練習問題など)

第 4 回: 文法編・読解編 (第 2 課の単語、文法、本文、練習問題など)

第 5 回: 文法編・読解編 (第 3 課の単語、文法、本文、練習問題など)

第 6 回: 文法編・読解編 (第 4 課の単語、文法、本文、練習問題など)

第 7 回: 文法編・読解編 (第 5 課の単語、文法、本文、練習問題など)

第 8 回: 文法編・読解編 (第 6 課の単語、文法、本文、練習問題など)

第 9 回: 文法編・読解編 (第 7 課の単語、文法、本文、練習問題など)

第 10 回: 文法編・読解編 (第 8 課の単語、文法、本文、練習問題など)

第 11 回: 文法編・読解編 (第 9 課の単語、文法、本文、練習問題など)

第 12 回: 文法編・読解編 (第 10 課の単語、文法、本文、練習問題など)

第 13 回: 日常会話編・中国語の豆知識編

1. コラボ型会話で使う主要「助詞・副詞・介詞・助動詞」(9 個) の解説
2. コラボ型日常会話編 (第十三課～第十四課の単語と本文など)

第 14 回: 日常会話編・中国語の豆知識編

1. コラボ型会話で使う「主要助詞・副詞・介詞・助動詞」(9 個) の解説
2. コラボ型日常会話編 (第十五課～第十六課の単語と本文など)

第 15 回: 日常会話編・中国語の豆知識編

1. コラボ型会話で使う主要「助詞・副詞・介詞・助動詞」(9 個) の解説
2. コラボ型日常会話編 (第十七課～第十八課の単語と本文など)
3. 課題の解答記入 (受講者) と解答の解説 (担当者)

## 準備学習(予習・復習)

・教科書や学習プリントなどを基に自学自習で学習を進めますが、授業範囲の内容の他に、教科書内容全体を 2 単位で 90 時間かけて学習することを目安としています。

・わからない用語や内容は、参考文献などで検索することが準備学習として必要になります。

## 成績評価の方法およびその基準

次項の項目および割合で標準評価基準に基づき総合評価する。科目試験による評価 100%

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

練習問題や課題は授業中にその解答の解説を行う形でフィードバックします。

## 教科書

使用教科書 (2 冊) は以下の通りです。

- ・書名: 『改訂版 会話で学ぶ初級中国語 CD 付』  
著者名: 田中英夫  
発行所: 丸善プラネット  
ISBN : 978-4-86345-558-0
- ・書名: 『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』 (音声再生アプリ付)  
著者名: 田中英夫  
発行所: 朝日出版社  
ISBN : 9784255453491

実施方法は以下の通りです。

- ・『改訂版 会話で学ぶ初級中国語 CD 付』は全ての内容 (第 1 回、第 3 回～第 12 回)
- ・『誰でも簡単に話せる中国語日常会話』は 14 頁～33 頁の内容 (第 2 回)、50～51 頁の内容 (第 13 回～第 15 回)、132 頁～179 頁の内容 (第 13 回～第 15 回)

<b>参考書・参考 Web サイト</b>
なし
<b>関連授業科目</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「海外事情（中国編）」（正科生 B のみ履修可能）</li> <li>・「海外語学・文化研修（中国大連編）」（正科生 B のみ履修可能）</li> </ul>
<b>その他</b>
なし
<b>担当教員の実務経験</b>
なし